

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	ガクコウホクジン マツヨウカクエン 学校法人 松商学園								
フリガナ大学の名称	マツモトダいがくがいがくイン 松本大学大学院 (The Graduate School of Matsumoto University)								
大学本部の位置	長野県松本市大字新村2095番地1号								
大学の目的	松本大学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、本学園創立の精神たる自主独立に基づく人間教育を行うことにより、地域社会の振興と地域文化の発展に資する人材を育成し、もって平和で豊かな社会の創造に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	健康科学分野において、研究者として自立して研究活動を行うことができる人材、または、より高度な知識、技術等を修得し、基礎的・実践的課題の解決へ指導的役割を果たすことができる人材の育成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる研究科】 健康科学研究科 健康科学専攻（修士課程） 14条特例の実施
	健康科学研究科 [Graduate School of Health Science] 健康科学専攻 [Course of Health Science] 計	3 年	2 人	— 年次人	6 人	博士 (健康科学) 【Doctor of Health Science】	令和3年4月 第1年次	長野県松本市大字新村 2095番地1号	
			2		6				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	健康科学研究科	講義	演習	実験・実習	計	30 単位			
	1 科目	13 科目	0 科目		14 科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
	新設	健康科学研究科 健康科学専攻（博士後期課程）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		計	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	— (—)
	既設	健康科学研究科 健康科学専攻（修士課程）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	20 (20)
		計	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	— (—)
	合計	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
			人		人		人		
	事務職員		86 (86)			0 (0)	86 (86)		
	技術職員		0 (0)			0 (0)	0 (0)		
	図書館専門職員		5 (5)			0 (0)	5 (5)		
	その他の職員		3 (3)			0 (0)	3 (3)		
	計	94 (94)			0 (0)	94 (94)			
							松本大学及び松本大学松商短期大学部全体		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	松本大学松商短期大学部（必要面積4,000㎡）と共用 総合グラウンド借用面積17,879㎡ 借用期間 平成22年4月1日～49年3月31日				
	校 舎 敷 地	5,234.49 ㎡	31,409.90 ㎡	1,999.41 ㎡	38,643.80 ㎡					
	運 動 場 用 地	0.00 ㎡	35,783.23 ㎡	0.00 ㎡	35,783.23 ㎡					
	小 計	5,234.49 ㎡	67,193.13 ㎡	1,999.41 ㎡	74,427.03 ㎡					
	そ の 他	0.00 ㎡	22,782.73 ㎡	0.00 ㎡	22,782.73 ㎡					
	合 計	5,234.49 ㎡	89,975.86 ㎡	1,999.41 ㎡	97,209.76 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	松本大学松商短期大学部（必要面積2,850㎡）と共用				
		15,603.18 ㎡ (15,603.18 ㎡)	8,175.37 ㎡ (8,175.37 ㎡)	4,292.22 ㎡ (4,292.22 ㎡)	28,070.77 ㎡ (28,070.77 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	松本大学全体 情報処理学習施設は松本大学松商短期大学部と共用（情報処理学習施設は語学学習施設としても使用。）				
	30 室	11 室	30 室	7 室 (補助職員 3人)	0 室 (補助職員 一人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称 健康科学研究科		室 数 12 室		基礎となる学部と共用				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	人間健康学部と共用とする。 うち、学術雑誌、視聴覚資料は研究科単位で特定できないため、共用の数 うち、図書については研究科単位で特定できないため、大学・松商短期大学部全体の数 うち、機械・器具、標本については研究科単位で特定できないため、大学全体の数		
	健康科学研究科	119,159 [11,039] (118,684 [10,936])	52 [15] (52 [15])	1,210 [1,210] (1,210 [1,210])	342 (342)	2,885 (2,883)	155 (155)			
	計	119,159 [11,039] (118,684 [10,936])	52 [15] (52 [15])	1,210 [1,210] (1,210 [1,210])	342 (342)	2,885 (2,883)	155 (155)			
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			松本大学及び松本大学松商短期大学部全体		
		1,220.78 ㎡	214 席		169,000 冊					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					松本大学及び松本大学松商短期大学部全体		
		第1:1964.05㎡ 第2:839.2㎡	硬式野球場1面、弓道場、テニスコート2面、室内練習場							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	—	—	—	
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—	—	
		図書購入費	1,464千円	927千円	927千円	927千円	—	—	—	
	設備購入費	1,280千円	12,925千円	0千円	0千円	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第1年次欄、上段は本学の大学院博士前期課程から引き続き博士後期課程へ進学する場合、下段はその他の場合。					
	800 千円 1,000 千円	800 千円 800 千円	800 千円 800 千円							
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入							

既設大学等の状況	大学の名称	松本大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	健康科学研究科	2	6	—	12	修士(健康科学)	0.99	平成23年度	長野県松本市大字 新村2095番地 1号
	総合経営学部			3年次			1.08		
	総合経営学科	4	90	5	370	学士(総合経営)	1.07	平成14年度	
	観光ホスピタリティ学科	4	80	5	330	学士(総合経営)	1.10	平成18年度	
	人間健康学部						1.11		
	健康栄養学科	4	70	5	290	学士(健康栄養学)	1.03	平成19年度	
	スポーツ健康学科	4	100	5	410	学士(スポーツ健康学)	1.17	平成19年度	
教育学部						0.99			
学校教育学科	4	80	—	320	学士(教育学)	0.99	平成29年度		
大学の名称	松本大学松商短期大学部								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
商学科	2	100	—	200	短期大学士(商学)	1.02	昭和28年度	長野県松本市大字 新村2095番地 1号	
経営情報学科	2	100	—	200	短期大学士(経営情報学)	1.02	平成4年度		
附属施設の概要		該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
（健康科学研究科健康科学専攻 博士後期課程）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎	健康科学特講	1前	2			○			9	3					オムニバス
	研究教育キャリア特講	1前	2			○			4						オムニバス
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			9	3	0	0	0	兼0	
専門科目	栄養科学領域	健康科学演習（分子栄養学）	1前		2			○	1						
		健康科学演習（健康実践栄養学）	1前		2			○	1						
		健康科学演習（微生物学・免疫学）	1前		2			○	1						
		健康科学演習（食品化学）	1前		2			○	1						
		健康科学演習（調理科学）	1前		2			○		1					
	小計（5科目）	—	0	10	0	—			4	1	0	0	0	兼0	
	運動医科学領域	健康科学演習（抗加齢医学）	1前		2			○	1						
		健康科学演習（健康運動学）	1前		2			○	1						
		健康科学演習（骨格筋生理学）	1前		2			○	1						
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			3	0	0	0	0	兼0	
人文・社会科学領域	健康科学演習（公衆衛生学）	1前		2			○	1							
	健康科学演習（医療社会学）	1前		2			○	1							
	健康科学演習（スポーツと法）	1前		2			○		1						
	健康科学演習（スポーツ心理学）	1前		2			○		1						
小計（4科目）	—	0	8	0	—			2	2	0	0	0	兼0		
研究別	博士特別研究	1～3通	12				○	8	1						
	小計（1科目）	—	12	0	0	—			8	1	0	0	0	兼0	
合計（15科目）		—	16	24	0	—			9	3	0	0	0	兼0	
学位又は称号		博士（健康科学）			学位又は学科の分野			家政関係、体育関係							
修了要件及び履修方法								授業期間等							
【博士前期課程から進学した者】 専門基礎科目の必修4単位及び専門科目のうちから2単位以上、「博士特別研究」12単位の合計18単位以上を修得し、かつ、博士の学位論文審査及び最終試験に合格すること。 【博士後期課程から入学した者】 専門基礎科目の必修4単位及び専門科目のうちから2単位以上、「博士特別研究」12単位に加え、博士前期課程の科目のうち「健康科学特論」2単位及び専門基礎科目・専門科目から2科目4単位以上の合計24単位以上を修得し、かつ、博士の学位論文審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分		2			期		
								1学期の授業期間		15			週		
								1時限の授業時間		90			分		

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
（健康科学研究科健康科学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 基 礎 科 目	健康科学特講	<p>（概要） 本特講では、栄養科学領域、運動医学領域、人文・社会科学領域について、各教員の専門分野の最新の知見や方法論、考え方等と未来への展開についての講義を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>① 山田 一哉／1回 栄養素が作用する分子メカニズムについての最新の知見と栄養素を摂取したヒトの多様な生理応答の分子基盤について学ぶ。</p> <p>② 廣田 直子／2回 人間の健康を考える上で重要な食事の在り方について、食事多様性さらに広範な食事の多面性に着目する必要性を考えた上で、人々の健康の維持・増進に向けた栄養・食教育について、最新の行動科学理論に基づいた効果的なアプローチ方法を学ぶ。</p> <p>③ 青木 雄次／1回 理想の予防医学とされる抗加齢医学について、アンチエイジングに関する学術的なトピックスを含めて学ぶ。</p> <p>④ 木藤 伸夫／1回 近年食中毒の原因微生物に変化がみられている。その原因（社会情勢の変化を含む）や宿主の反応を考察し、対応策を考える。</p> <p>⑤ 弘田 量二／2回 疫学研究方法論を実践する際の問題点とその克服について事例研究から、横断研究、コホート研究における因果関係の立証、バイアスと誤差的バラツキ、交絡因子などを学修する。疫学研究方法論を実践する際の問題点とその克服について事例研究から、臨床試験におけるバイアスと誤差的バラツキ、交絡因子などを学修する。</p> <p>⑥ 高木 勝広／1回 食品因子による栄養機能制御について最新の知見を解説するとともに、機能性評価の方法についても学ぶ。</p> <p>⑦ 根本 賢一／1回 運動・身体活動を含む生活習慣が健康に及ぼす影響と適切な運動やその他の身体活動を効果的に日常生活に取り入れる方法を科学的知見に基づき学ぶ。</p> <p>⑧ 福島 智子／1回 医療社会学では、病気と診断、治療に関する新しい動向について社会学的観点から学ぶ。</p> <p>⑨ 河野 史倫／2回 運動に対する骨格筋の適応変化とその仕組みについて、最新の知見と分析技術を学ぶ。</p> <p>⑩ 石原 三妃／1回 調理科学分野における最新の知見と食品を食べ物に調製する際の化学的、物理的な法則性について学ぶ。</p> <p>⑪ 新井 喜代加／1回 スポーツと法では、スポーツと法に関わる問題・課題に焦点を当て、その解決策を探るための最新の知見をスポーツ法学やスポーツ政策学などの関連領域から学ぶ。</p> <p>⑫ 齊藤 茂／1回 臨床心理学における「知」の在り方、及びその研究方法論について、自然科学における「知」のそれらと比較しながら学ぶ。</p>	オムニバス方式

専 門 基 礎 科 目	研究教育キャリア特講	<p>(概要)</p> <p>本特講では、研究者としての倫理観の育成、研究計画や研究費申請書の作成法、研究論文の書き方や効果的な研究発表の方法等を分野別に取り上げるとともに、大学教員になるとは、あるいは社会が必要とする人材とはどのようなものかなど、研究を推進するにあたっての心構えと社会に出ていくための準備としてのキャリア教育の内容を含む。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 山田 一哉/8回)</p> <p>主に実験系を中心に、研究計画の立て方、研究費申請書の書き方、研究論文の書き方やわかりやすい発表法など、研究者として身につけておくべきスキルや知識を解説する。また、将来の進路を考えるうえで、必要な若手研究者を支える公的制度について解説するとともに、大学教職員として身につけておくべき知識や情報をFDやSDの面から解説する。</p> <p>(5 弘田 量二/2回)</p> <p>「研究発表法②」では、観察・介入研究のデザイン、リサーチクエスション定型文であるPICOに基づいた、研究の骨組み・他の研究者に伝わりやすい論文成方法を学修する(実践・調査系)。「企業で求められる人材とは」では、複数の企業で働いていた経験を有する教員として、企業で働くために身につけておくべきスキルや知識について解説する。</p> <p>(7 根本 賢一/2回)</p> <p>「研究活動実践法」では、地域をフィールドとして行う研究活動の実践法について学ぶ。「病院で求められる人材とは」では、病院で働いていた経験を有する教員として、病院で働くために身につけておくべきスキルや知識について解説する。</p> <p>(8 福島 智子/3回)</p> <p>「研究倫理」では、研究を進めていくために必要な研究倫理やガイドライン等および松本大学研究倫理委員会への審査申請法について学ぶ。「研究費申請書の書き方②」をテーマに、文部科学省や日本学術振興会の科学研究費の申請書を作成するにあたっての注意点を解説する(実践・調査系)。「研究発表法④」では、国内外での学会発表に当たっての注意点を学ぶ(実践・調査系)。</p>	オムニバス方式
	専 門 科 目	<p>健康科学演習(分子栄養学)</p> <p>生体の血糖調節に関わるホルモン、糖質や脂質等の栄養素、ならびに、健康に寄与することが報告されている食品成分が生体内でどのような分子メカニズムで作用するかについて学修する。特に、関与するシグナル伝達経路や標的遺伝子の転写調節レベルでの作用についての最先端の学問的理解を深める。</p> <p>博士特別研究を推進するために、英文学術論文の抄読を中心として様々な情報を収集し、その研究内容の理解・学問的位置づけ等を批判的に考察する。そうすることで、その情報が自らの研究にとって必要なものかそうでないかどうか判断する能力を養う。あわせて、発表者側と批評者側に立って発表・議論することで、研究論文をより科学的かつ複眼的に批評できる能力も養うことを目的とする。</p> <p>健康科学演習(健康実践栄養学)</p> <p>人々のQOLの向上に不可欠な健康の維持増進に関する、人を対象とした理論モデルについて理解を深め、ヘルスプロモーションにおける教育的アプローチと環境アプローチ、およびそれらの基盤となる栄養素摂取や食生活状況のアセスメント方法等に関する知識や考え方について研究的視点を重視して、学修する。</p> <p>博士特別研究を推進するために、和文及び英文の学術論文の抄読を中心として、関連分野の研究テーマ、研究の方法論、成果と課題についてディスカッションし、考察する。それにより研究者としての視野の広さと研究を緻密に構築する力を養う。あわせて、発表者と批評者の立場で発表およびディスカッションすることで、研究論文としてまとめられた知見を人や社会のあり方に結びつけて考えることができる能力の修得をめざす。</p>	

専 門 科 目	栄 養 科 学 領 域	健康科学演習（微生物学・免疫学）	食品に関わる微生物について学修する。食品に関わる微生物には、発酵食品に代表される人間の役に立つ微生物から、食中毒の原因となり人間の害となる微生物まで含まれ、対象は幅広い。そのため、大学院生が興味をもっている分野に合わせて対象を限定し、幅広い学修ではなく、専門家として自立できるよう深みのある内容とする。また近年一般的になってきたプレ・プロバイオティクスを正しく理解するためには、免疫学の知識も必要となる。これらの分野に関連する国際的な雑誌に掲載された最新の学術論文を読み、内容の理解に加え、実験の進め方、まとめ方を習得する。さらに、論文の研究を今後発展させるにはどのような実験が必要かという考察を行い、記載されている内容の重要ポイントを明らかにし、研究の展開、研究計画の立て方などを身につける。	
		健康科学演習（食品化学）	食品の機能性に関する研究は、生活習慣病などの疾病予防・改善の観点から多くなされてきた。本演習では、特に抗糖尿病効果（血糖低下作用）を期待できる生理活性物質が、生体内でどのようなメカニズムで作用しているかについて、シグナル伝達経路や遺伝子の転写調節レベルでの作用についての学問的理解を深める。また、様々な文献よりデータを収集し、血糖低下作用を示す化合物の構造上の特異性についても考察する。そうすることで、それらの情報が自らの研究にとって必要なものかそうでないかどうかについて、ディスカッションを通して判断する能力を養う。あわせて、発表者側と批評者側に立って発表・議論することで、研究論文をより科学的かつ複眼的に批評できる能力も養うことを目的とする。	
		健康科学演習（調理科学）	「調理」は、食事計画から調理操作を行い、完成された食べ物を食卓に提供するまでの、さまざまな内容を含んでいる。人が健康を保ち快適に生きていくための料理を提供する決め手となるのが調理である。調理にかかわる課題を多角的に発見、解決の方法を探求していく。 特に各ライフステージにおいて重要な食品物性と嗜好性の関係について最先端の課題について学問的理解を深めることとする。博士特別研究を推進するために、国内外の学術論文の抄読を中心として様々な情報を収集し、その研究内容の理解・学問的位置づけ等から自らの研究の課題テーマを明確にするとともに研究手法を学んでいく。食品素材は複雑系であるため、測定法を模索していく際の的確に探究する能力を養うものである。	
	健康科学演習（抗加齢医学）	日本抗加齢医学会編集のテキストを参考として、抗加齢医学の現状と展望について概観し、加齢または抗加齢と食事・運動・ストレス・睡眠など生活習慣書との関わりについて学習する。その中で、基礎的および臨床的研究がある程度進んでいるテーマを選択し、国内外におけるそのテーマに関連する状況を検索し考察する。情報発信に値しうようであれば、ミニレビューなどの論文としてまとめることも試みたい。 健康長寿は万人が望むところであり、最近の科学技術の発展を基盤とする抗加齢医学に期待が寄せられているが、まだ歴史が浅くエビデンスの乏しい分野も多くみられる。万人に利する可能性の高い抗加齢医学の一端に触れ、真理を追究する科学者の一人として、分子レベルの研究から臨床まで、科学を基盤とする洞察力を身につけることを目指す。		
運動医 科学 領域	健康科学演習（健康増進学）	日常的に運動習慣のある者は、動脈硬化の危険因子が抑制され、筋力及び持久性体力が高いことが明らかである。中高齢者が生活習慣病予防や健康増進のために運動する場合でも、ある程度の運動強度が必要となる。ウォーキングにしても、日常生活動作と同等かそれ以下の付加で歩くだけでは、望むほどの効果を得ることは難しい。本講義では主に、インターバルトレーニングの理論を基礎に開発した、中高齢者向けのインターバル速歩トレーニングが体力向上や生活習慣病改善等の効果及び、その実施方法と実践的な取り組みについて理解を深める。また、発表者側と批評者側に立って発表・コメントすることで、研究論文を科学的かつ複眼的に批評できる能力を養う。		
	健康科学演習（骨格筋生理学）	骨格筋には、筋力発揮やエネルギー代謝以外にも生理的機能があると考えられている。特に遅筋と速筋では構造や代謝機能、適応変化が全く異なる。筋タイプ固有の機能を深く理解することで、骨格筋の未知機能へアプローチする。また、筋タイプは運動などの刺激によって適応変化すると理解されてきたが、実際には”変わりにくい”部分が多いことも事実である。骨格筋の”変わりにくさ”について過去の文献から最新情報までを活用し読み解くことで、骨格筋メカニズムの核心的な部分を理解する。以上のような学修から、老化や疾患による骨格筋機能破綻の仕組み、健康長寿に必要な骨格筋の仕組みやその応用方法について、自分なりの考察や着眼点を持つようになることを目的とする。		

人文・社会科学領域	健康科学演習（公衆衛生学）	<p>環境因子曝露と健康との係わり合いを生態学および生体影響の視点に立ち、人の健康や生命の維持について総合的・包括的に捉える。物質による曝露、生体影響、予防、リスク評価ならびに食料・環境問題について、科学的な理解を深めて、さらに社会学的な議論への展開を視野に入れて研究し、最先端の学問的理解を深める。</p> <p>博士特別研究を推進するために、英文学術論文の抄読を中心として様々な情報を収集し、その研究内容の理解・学問的位置づけ等を批判的に考察する。そうすることで、その情報が自らの研究にとって必要なものかそうでないかどうか判断する能力を養う。あわせて、発表者側と批評者側に立って発表・議論することで、研究論文をより科学的かつ複眼的に批評できる能力も養うことを目的とする。</p>	
	健康科学演習（医療社会学）	<p>社会学的視点から、現代社会における人間の生老病死を学修する。超少子高齢社会にあって病むことや老いること、さらには死にゆくことの経験を、一次資料もしくは二次資料に基づいて分析する手法を学ぶ。とくに医療を対象とする社会学的観点から、組織構造・役割関係・価値体系・儀礼・行動システムに関する理解を深める。保健・医療・福祉を取り巻く諸問題を、文化・社会的視点から考察する。</p> <p>社会学領域における古典の先行研究についての理解を深めながら、同時に最新の学術論文の抄読を中心として様々な情報を収集し、研究内容の理解・学問的位置づけ等を批判的に検討する。社会学の概念装置について理解し、それを用いて研究テーマとする社会事象について推論できる能力を養う。</p>	
	健康科学演習（スポーツと法）	<p>スポーツが高度化・大衆化する現代において、スポーツに関する諸問題は拡大・深化している。本講義では、体育科学・スポーツ科学領域のなかでも、人文・社会科学系に関する諸問題について理解を深め、その解決の糸口を探求する。また、体育・スポーツに関する諸問題について理解を深めるなかで、受講生は、個々の研究課題の発見を目指す。さらに、現代社会における体育科学・スポーツ科学分野の研究の意義についても理解を深める。</p> <p>具体的には、体育・スポーツに関する法規、政策、政治、経済、行政、制度、組織、ジェンダー等を扱う国内外の文献および資料のうち、受講生の研究テーマに関するものの概要をまとめ、報告する。それをもとに、他の受講生とディスカッションを展開し、多様な観点から問題を捉える力を養う。</p>	
	健康科学演習（スポーツ心理学）	<p>本講義では、スポーツ心理学の関連領域に関して最先端の学問的な理解を深めることを目的とする。具体的には、「心の健康」（適応と不適応）に関する様々な理論、「ストレスマネジメント」に関する理論、「行動変容理論」、及び「障害者スポーツ」や「メンタルトレーニング」の実践的な知識等について学ぶ。</p> <p>また、博士論文を執筆することを念頭に置き、当該研究専門領域における学術論文の抄読を中心として様々な情報を収集し、これまでの研究をさらに発展させるべき分野を見極め、これまで十分な研究がなされていない題材を見つけることにより、博士論文の研究テーマの選定に生かす。また副次的には、自ら積極的に課題に取り組む姿勢や効果的なプレゼンテーション技術の獲得等も目指して演習を進めていく。</p>	

<p style="text-align: center;">特 別 研 究</p>	<p>博士特別研究</p>	<p>(概要) 博士特別研究では、「健康科学」分野の研究課題に関して、主指導教員及び副指導教員による指導のもと、新規性・独創性のある研究テーマと研究計画を策定する。研究を計画的に遂行し、結果を分析、考察し、研究成果を論文としてまとめる。さらに、論文を推敲し、博士論文として仕上げることで、自立して研究できる能力を身につける。</p> <p>(1 山田 一哉) 「ホルモンと栄養素」による遺伝子の転写調節機構の解析に関する分子生物学的研究を行う。血糖調節ホルモンであるインスリンや栄養素である糖質・脂質による遺伝子の転写調節機構に関して、糖代謝系酵素遺伝子、概日リズムを調整する時計遺伝子でもあるインスリン誘導性転写因子遺伝子、ならびに、長寿遺伝子等に注目して研究を行う。</p> <p>(2 廣田 直子) 人々のQOLを向上させるためには、心身および社会的な健康の維持増進が重要である。このような視点を重視して、人を対象とした実践栄養学分野の研究に取り組む。研究の視点としては、ヘルスプロモーションにおける教育的アプローチと環境アプローチ、およびそれらの基盤となる栄養素摂取や食生活状況のアセスメント方法等に着眼し、よりよい食生活の提案に寄与するような研究を進める。具体的には、人々の健康に及ぼす食物摂取状況や食環境要因の分析・評価、ならびに食・栄養教育を効果的に進めるための個人または集団レベルでの介入方法等に関する研究を中心とする。</p> <p>(4 木藤 伸夫) 食にかかわる微生物、特に細菌や酵母について、微生物学、生化学、分子生物学の手法を用いて研究する。具体的には発酵食品からの乳酸菌や酵母の分離とその活用法、黄色ブドウ球菌やサルモネラ菌などの食中毒原因菌を用いた食中毒予防に関する研究、昆虫病原糸状菌であるボーマリア菌が産生する抗菌物質についての研究となる。</p> <p>(6 高木 勝広) インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングと作用機構の解析に関する研究を行う。本研究は、唯一の血糖低下ホルモンであるインスリンの作用を模倣する(血糖低下作用を示す)食品由来の低分子化合物を自然界から見つけ出し、分子生物学的手法を用いて作用機構を解明する。さらに、血糖低下作用を示す化合物の構造上の特異性を考察する。</p> <p>(3 青木 雄次) 「加齢と抗加齢」に関して、ヒトを対象とした研究を行う。健康長寿に影響する食事・運動・ストレス・睡眠に関連して、地域住民を対象としてまたは地域在住の百寿者研究を利用して、アンケート調査およびバイオシグナルやバイオマーカーの測定を中心とする研究とする。基礎的研究が有用または必要となった場合には、他研究室との共同研究を行う。</p> <p>(9 河野 史倫) 骨格筋はこれまで適応性に富んだ組織と言われてきたが、骨格筋には“変わりにくい”仕組みが存在することも事実である。運動や諸生活習慣がもたらす影響は骨格筋に残存し将来の刺激応答性に影響を及ぼし、変わりにくさを生じると考えられる。また、遅筋は外部刺激に対して非常に応答しにくい特徴を持つことも分かっている。このような骨格筋の変わりにくい仕組みを、骨格筋に起こるエピジェネティクスを調べることで解明する。</p>	
--	---------------	---	--

<p style="text-align: center;">特 別 研 究</p>	<p>(博士特別研究)</p>	<p>(11 新井 喜代加) 体育科学・スポーツ科学分野のなかでも人文・社会科学系に関する諸問題の解決につながる研究を計画・遂行し、その成果を博士論文としてまとめる。体育科学・スポーツ科学の対象は多岐にわたるが、本授業では、体育・スポーツに関する法規、政策、政治、経済、行政、制度、組織、ジェンダー等を扱う国内外の研究の手法を応用し、スポーツ振興論、スポーツ人権論、或いは、スポーツ事故論を軸に研究を展開する。</p> <p>(5 弘田 量二) 環境因子の曝露によるアレルギー発症メカニズムとその予防方法について研究を深める。特に、環境因子とTh1、Th2や制御性T細胞など免疫システムとの関わりについて総合的・包括的に捉える。研究対象とする環境因子は、機能的食品成分や機能的被服繊維など幅広く扱う。これらの科学的な理解を深めて、抜本的・革新的アレルギー予防方法の確立を目指す。</p> <p>(8 福島 智子) 現代社会における人間の生老病死を対象とした社会学的研究を行う。病や老いひいては死を取り巻く社会・文化の現状に焦点をあて、主には質的研究によって事象を分析する。病や死に直面する当事者のみならず、彼（彼女）らを支える人びとも研究対象とし、他者の合理性の理解を目的とした調査の計画から実施、データ分析、考察を行う。</p>	
--	-----------------	--	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人松商学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
松本大学大学院				松本大学大学院					
健康科学研究科				健康科学研究科					
健康科学専攻(M)	6	—	12	健康科学専攻(M)	6	—	12		
				<u>健康科学専攻(D)</u>	<u>2</u>	—	<u>6</u>	課程変更（認可申請）	
計	6	—	12	計	<u>8</u>	—	<u>18</u>		
松本大学				→	松本大学				
総合経営学部 3年次				総合経営学部 3年次					
総合経営学科	90	5	370	総合経営学科	90	5	370		
観光ホスピタリティ学科	80	5	330	観光ホスピタリティ学科	80	5	330		
人間健康学部 3年次				人間健康学部 3年次					
健康栄養学科	70	5	290	健康栄養学科	70	5	290		
スポーツ健康学科	100	5	410	スポーツ健康学科	100	5	410		
教育学部 3年次				教育学部 3年次					
学校教育学科	80	—	320	学校教育学科	80	—	320		
計	420	20	1,720	計	420	20	1,720		
松本大学松商短期大学部				松本大学松商短期大学部					
商学科	100	—	200	商学科	100	—	200		
経営情報学科	100	—	200	経営情報学科	100	—	200		
計	200	—	400	計	200	—	400		